

# 「不易」と「流行」 誠実・克己・忠恕

## ～幕末の志士 橋本左内の「啓発録」・・・～

橋本 左内（はしもと さない）は、1843年現在の福井県に生まれ、蘭学と医学の勉強をするため江戸へ遊学し、藤田東湖や西郷隆盛と交友。20歳の時に黒船が来航、まさに幕末の激動の時代を生きた人物です。22歳で福井藩主、松平春嶽（しゅんがく）に取り立てられ藩政や幕政に関わるようになりました。



左内は、「西洋に後れをとっている科学技術を西洋から学ぶことは大切だが、それは日本の誇りを捨てて、何でも西洋の真似をすればいいというわけではない。この厳しい国際社会において、日本が外国と対等な独立国となるためには、開国して世界の強国と結びつきをもたなければならない。」という国家戦略を示しました。

しかし、左内の進んだ考えは脅威と受け止められ、捕らえられてしまいます。（安政の大獄）左内が表舞台で活躍したのは安政二年から五年のわずか三年でしたが、その学識、見識は松平春嶽だけでなく西郷隆盛・吉田松陰をはじめ、誰もが認めるところでした。その左内が**14歳**の時に、一人前の大人になるため、自らの決意を綴ったのが「啓発録」です。そこには左内の5つの決意が書かれています。

### ・「去稚心」（きよちしん）

稚心を去る。子どもじみた甘ったれた依頼心を捨て去り、独立独歩の心を起こす。  
（五つの決意の中で一番大事なのがこの「去稚心」です。なぜならこの後の四つの決意は、「稚心」を去らなければ成り立たちません。）

### ・「振気」（しんき）

気を振るう。何事に対してもやる気を起こし、勇気を持って事にあたる。  
（自分自身の心の中で決めたことを、どんなことがあっても挫けず、立ち向っていくように気力を奮い立たせること。） →本校の校訓の「克己」と通じるものがありますね。

### ・「立志」

志を立てる。一所懸命勉強して、天下国家に役に立つ人間になる。  
（志というと、ものすごく大きく大変なことと思うかもしれませんが、「人の役に立つ人間になろう」ということではないでしょうか。）

### ・「勉学」

学に勉める。学問に励む  
（「学」とは、習って真似をするということ。優れた人物のよい行い、よい仕事を見習い、実行すること。素晴らしい知識・情報をインプットするだけでなく、同時に人間性を高める。）

### ・「択交友」（たくこうゆう）

交友を択ぶ。友を選び、切磋琢磨して自分を磨く  
（たくさんの人の中からよき友を選び出すということ。自分を高めてくれる人、お互いに切磋琢磨できる人と付き合うことが、有意義な人生を切り開いていくということ。）

「致知」6月号 瀬戸謙介さん『「啓発録」に学ぶ』より

左内は、安政の大獄で処刑される一年前、自分の部屋で、14歳の時に綴ったこの「啓発録」を見つけました。そして、親友に序文を書いてもらい、一冊書き写して自分の弟と愛弟子に贈りました。そのおかげで今私たちは、この左内の決意・志に触れることができます。  
君たちは、この県高で16・17・18歳を迎えます。14歳の左内の決意から何を感じ、学びますか？